

中東出張報告

【出張概要】

アラブ諸国若手国会議員との会議に出席（参加国：サウジアラビア、エジプト、パレスチナ、イエメン、バーレーン、アルジェリア、チュニジア、オマーン、ヨルダン）
面会先：国王、アブダラー計画相（以上ヨルダン）、アルバディ氏（アブダビ）
当方：河野太郎衆院議員、松本純衆院議員、柴山昌彦衆院議員、鈴木馨祐衆院議員（以上自民）、浅尾慶一郎参院議員（民主）

【ポイント】

（全般）

- 日本が被爆国であること、戦後の歩み等から日本に国際政治の場においてよりプレゼンスを発揮してほしいとの意見が多い（常任理事国入りも含め）
- 日本に対し援助国としてしか捉えていない見方も未だ一部にあり
- 中国の中近東での影響力拡大は広く認識されている（その影響か、政治的影響力は援助額に比例するという類の意見あり）

（イラク情勢）

- イラク政策に関連して日本が対米盲従であるような印象が一部にあることに注意が必要
- イラクについての日本の立ち位置は政府レベルでは理解されている模様。プラスマイナスは評価が困難

（パレスチナ情勢）

- 「平和と繁栄の回廊」構想、東京での四者会合を高く評価。多くの言及あり

（イラン）

- イランの核の脅威がイスラエルでなくスンニ派の湾岸諸国を標的にしているとの見方多数（イランの核廃棄への日本の協力を期待する声あり）

（GCC）

- 金融センターとしてはドバイがバーレーンを追い抜いた
- ドバイ・カタール・アブダビ等で同様の成長戦略（航空・流通に重点）。明確な差異は無い。供給過剰の恐れあり。
- 日本の投資への期待の声が強い

◎ヨルダン情勢

<国王・開発相との面会結果>

- 経済成長等のマクロ指標は堅調、地域間格差が課題に
- 地域の平和安定がヨルダンの経済成長に必須
- 経済成長・雇用創出がパレスチナをはじめとする平和構築に大きく寄与するとの理念が強い
- 日本のパレスチナ・イラクへの取り組みを高く評価
- パレスチナよりもイラクが喫緊の課題と認識
- 中東は非常に不安定で今後数ヶ月が分水嶺（スンニ派とイラク政府の橋渡し、過激派がイスラエルを攻撃する口実を与えないこと等がポイント）
- FTA・EPA、公的債務借り換えへの強い要望あり
- 日本を他国と異なり「信用できるブローカー」と認識
- イランについては米・イスラエルがイラン攻撃した場合の湾岸諸国の市民の反発が不安定を引き起こすのでアメリカに攻撃を留まってほしい

<現地進出日本企業トップ（商社・合弁化学工場）との意見交換結果>

- ベイルート後、バーレーンと並びアンマンはイラクも含めた地域の拠点となっているが中東の中心的拠点はドバイ
- アンマンの治安は非常に良好
- イラクに関してもエルビルのあたりの治安はかなり安定（商社の人間が数回入っている）
- レバノン・シリアと異なりビジネス環境は良好。サウジも同様だがトップの姿勢もありクリーン
- 国王の異母妹（？）が早稲田大学卒業後在日ヨルダン大使館に勤務予定

